

あとがき

本書は、同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻に提出した博士学位請求論文「営利法人に対する保育政策に関する研究—保育サービスの実態の比較検討を通して—」に加筆修正を加えたものである。

学位論文の作成にあたり、主査の堀橋孝文先生には丁寧なご指導と多くの励ましをいただいた。また、副査の労をおとりくださった上野谷加代子先生、学外副査を務めてくださった関西大学の山縣文治先生からは、今後の研究を見据えた貴重な意見をいただいた。心よりお礼申し上げたい。

堀橋ゼミでは、堀橋先生だけでなく、他の院生からも有益な意見をもらうことができた。また、他の院生の報告やそれに対するコメントを聞くことで学位論文の執筆をどのように進めていくべきかということを学ぶとともに、刺激やエネルギーを得ることができた。心より感謝したい。さらに、お忙しいなか、本書の調査にご協力くださった保育所の方々にも厚くお礼申し上げたい。

筆者は、大学院の修士課程から保育サービス提供を含めた社会福祉サービス提供における民間部門の役割、とくに「社会福祉法人の存在意義や独自性とは何か」ということに関心を持って研究を進めてきた。研究を進めていくなかで、社会福祉法人の存在意義や独自性を追求していくためには、社会福祉法人の実態や社会福祉法人制度のあり方のみを議論するのではなく、営利法人の参入についても検討する必要があるのではないかと思い、営利法人に焦点を当てて研究を進めるようになった。

その意味で本書の研究は大学院の修士課程から始まっていたと言える。大学院の修士課程を過ごした大阪市立大学社会福祉学研究室では、秋山智久先生（現・東京福祉大学）のご指導のもと、アットホームで自由な雰囲気の中で、よき友人、先輩、後輩に囲まれて研究させていただいた。この研究室で学んだことは、筆者の研究活動、教育活動にとって貴重な財産となっている。修士課程修了後も含めて温かい助言と励ましをいただいたことに心より感謝したい。

さらに、筆者の大学院の修士課程への進学について理解、支援をしてくれた母親、そしていつも研究活動を支えてくれた妻の静乃に感謝したい。

最後に、本研究の意義に理解を寄せていただき、本書を出版する機会を与えてくださった法律文化社の編集部の方々、出版にあたって丁寧な編集作業をしていただいた小西英央氏に、心より感謝申し上げます。

2015年3月

石田 慎二